

# 例 言

1. 本書は、2022年度に京都府立大学文学部歴史学科の教員と学生がおこなったフィールド調査、およびそれに関連する研究、調査研究成果の活用についての概要報告集である。
2. 第Ⅰ部には、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）をはじめ、京都府下において歴史学科教員が中心となって実施したフィールド調査の概要を収録した。なお、複数年度にまたがる研究課題については、2022年度以前の調査成果とあわせて収録している場合がある。
3. 第Ⅱ部は、京都府外の地域を対象に、科学研究費補助金の研究課題や受託研究、実習授業などの一環として、歴史学科の教員と学生が中心となって実施したフィールド調査の概要を収録した。
4. 第Ⅲ部には、京都府立大学文学部歴史学科が中心となって進めている京田辺市史、和束町史の編纂事業に関わる調査の速報を収録した。京田辺市とは2017年度より京田辺市史編纂に関わる「連携協力に関する覚書」を締結しており、2022年度より「連携協力に関する協定」を締結することになった。協定を結んだことで始まった京田辺市内の小中学校との連携事業についても第Ⅲ部に取り上げている。また、和束町とは2017年度より「連携協力包括協定」を締結している。
5. 第Ⅳ部には、歴史学科の学生による課内・課外での取組み内容の報告を収録した。なお、本年度の「文化遺産学フィールド実習」（歴史学科2回生向け実習科目）では兵庫県多可町に赴いた。本書ではその調査成果の一部を示す。岩座神地区に関する調査については、別途、改めて報告書にまとめる予定であるため、掲載していない。
6. 本号の編集は上杉和央が担当した。編集にあたっては、宮田匡・守田悠（文学研究科史学専攻博士前期課程1回生）が編集実務を分担した。

#### 編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

---

京都府立大学文学部歴史学科

## フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

---